

絵本『たべたのなあと』 動物と食べ物の関係性について理解しよう

教科・場面

グループ学習  
(国語・算数・道徳)

授業・実践のねらい

- ・絵カードのマッチングができる
- ・5までの数を数える
- ・簡単なやりとりの経験をつむ

対象の児童・生徒

小学部4、5、6年生  
いす座位がとれる児童5名、バギー1名。医療的ケアが必要な児童1名(気管切開 呼吸器使用)。やや難聴のある児童1名。

教材・教具

デジタル絵本『たべたのなあと』  
絵本広場というサイトから絵本素材を活用した。

工夫したところ

モニターから質問を見ることで個別に課題に取り組みようにした。集団活動特有の待つ時間をなくして、集中する時間の確保に努めた。デジタル絵本なので拡大縮小など加工もしやすかった。

めろんをたべた  
かぼさんは



めろんみたい  
あみあみもよ  
なっちゃった!



たべたの なあと?



もも

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ① 絵本を読んでみよう  
『たべたのなあと』  
モニターを見やすい位置を確保した。
- ② モニターに映し出される質問に、それぞれの方法で絵カードをとる。  
質問例『〇〇(動物)が食べたのは、なあと』という質問を実施した。  
7枚の絵カードを用意し、児童に応じて →3択択一 →2択択一とした。  
各児童の課題として、近くの教員が選択を提示した。
- ③ モニターに映し出される果物の数にあわせて、手拍子をする。  
模範解答を提示してから、各児童が実施するようにした。
- ④ 今回は実施していないが、発展した質問を考えていた。  
・動物の鳴き声 ・鳴き声の数に合わせて手拍子

授業・実践を通じた児童生徒の変容

動物と食べたものの関係性について、読み聞かせの段階で、オーバーアクションと言葉かけを行ったことが、興味関心をひいており、ストーリーの進行に合わせて支援なく自分で行う児童が多く見られた。工夫でも記載したが、個別に課題に取り組み方法をとったため、待つ時間を少なくしたことで、授業の展開が終わるまでの30分間、児童の集中力が続くことができた。